

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【慈恩寺小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語「主語と述語の関係を抑える問題」 算数「数と計算」における小数の除法や四則混合の計算」 ＜指導上の課題＞ 学校課題研修を中心に授業研究を行い、児童が何を学ぶか、どのような力をつけるかを明確にする必要がある。	⇒ 朝の短時間学習や授業の中で、プリントやドリルパーク等を用い、学習上課題の見られた問題の類似・過去問題の反復学習を重点的に取り組む【週1回】 学年・ブロックを中心に授業参観を定期的に行い、授業研究を進める。【学期1回】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語「書くこと」算数「図形」領域」 ＜指導上の課題＞ 各学年にみられる課題の改善に向け、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業展開が必要である。	⇒ 様々な学習活動や学校行事等において、ねらいに応じてふりかえりを書く活動を設定し、取り組ませる。【各行事毎】 「自己の考えが伝わるよう適切な図表を用いて書き表し方を工夫する活動」に課題がみられたため、各教科で図表等の根拠資料をもとに自己の考えをまとめる活動に重点的に取り組む。【月1回】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	結果提供(2月)
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる問題に課題が見られる。問題文をよく読み、似たような選択肢から正答を見つけることに苦手意識があると考える。 算数では、台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題に課題が見られることから、多角形の特徴を正しく理解することが必要だと考える。 理科では、氷がとけてきた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したこと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題に課題が見られた。知識として獲得したものを自分なりにまとめること活動が必要である。
思考・判断・表現	国語では、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題に課題が見られたことから、普段から短い文章や日記等を書く活動が必要である。 算数では、伴って変わる2つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題に課題が見られた。単純な計算問題だけでなく、複合的な問題にも取り組む機会を増やす必要がある。 理科では、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題に課題が見られた。実験結果を自分の言葉で、思考ツール等を用い整理させることが必要である。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝の短時間学習や授業の中で、プリントやドリルパーク等を用い、学習の習熟を図った。習熟だけでなく昨年度までに課題の見られた類似・過去問題を学期末に重点的に取り組む学年も増えた。授業研究を進めることで、児童が身に付けるべき資質・能力への理解が深まりつつある。	見直しなし
思考・判断・表現	B	これまでにを行った学習活動や学校行事等において、ねらいに応じてふりかえりを書く活動を設定し、取り組ませた。またSSDBも活用し、記録として残すようにしている。昨年度、課題が見られた内容の改善のため、各教科で図表等の根拠資料をもとに自己の考えをまとめる活動に重点的に取り組んだ。	見直しなし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)